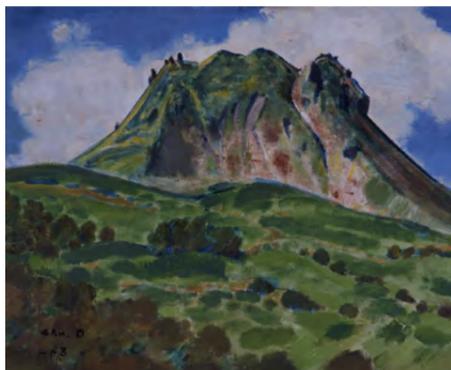


感動の場

『初秋のイワオヌプリ』
1963年 小川原 脩 画



雲から出たり隠れたり、特徴ある姿を時折見せる秋のイワオヌプリ。ひんやりとした涼しい空気に包まれ、次第に色づき始めた頃でしょうか。

1963年9月、「秋色の国定公園 画伯のスケッチブックから」という新聞連載に、小川原脩はイワオヌプリについて次のような文章を寄せています。「…イワオヌプリはどんな角度からみても結構である。蘭越側にある南面は色彩の変化と起伏のおもしろさでこの風景をいっそう華麗なものに仕立てているし、倶知安側の東の壁は威厳に富んだ重量感とりょう線の鋭さでじゅうぶんきびしいものを与えてくれる。白い山肌に低い高山植物の群落が点々と続くこの高原はなかなか立ち去り難い。…」この頃から、ニセコ連峰の山々のなかでも、イワオヌプリを単独で描くことが多くなりました。それは、造形的な面白さを感じていたからなのかもしれません。

文：沼田 絵美（小川原脩記念美術館 学芸員）

ふるさと探訪

まちづくりのはじまり —基点と基線—

474回

昔から町内にあって、今も暮らしを支えているものを探してみたいと思います。今回は基線と基号線です。これは町の設計図とも呼べるもので、農地や道路、建物、市街地など、人々の暮らしやまちづくりを陰で支えてきました。

国道276号線が国道5号線につながる交差点、その北東の角には『倶知安原標の碑』があります。これは昭和52年に建立されたもので、文面には『かつて、皇室御料林であった倶知安原野へ明治25年5月以降開墾を始める入地者が続出した。そのため、明治27年、御料林が解除され、北海道庁はこの国有未開地に780の区画を設定し、順次移住民を入植させた。この地点が区画測量の基点であり、まちづくりの基となったものである。』と書かれています。また、明治末期の地図『倶知安村地番地図』では、原野は南北方向に「号」、東西方向に「線」と区画され、号・線の間隔は300間（約546けん）、それを6つに分け、1区画5町歩（約5ちゆうぶ畝）を入植者に貸し付けたことが分かります。

この地番地図から、当時の区画測量の苦労がうかがえます。基線は原野の自然の地形を生かし、南側を東西に流れる尻別川、倶登山川に挟まれた河岸段丘・丘陵を避けて、寒別まで原野の中に一直線に線が引ける場所を選んだと思われます。できるだけ多くの入植地を設定できるように区画し、人や物資の往来がしやすい道路をつくれるよう考えられたようです。

文：今井 真司（倶知安風土館 学芸補助員）



▲倶知安原標の碑



▲倶知安村番地地図

展覧会のお知らせ

■第1展示室

没後20年小川原脩展「私の中の原風景」part2

小川原脩没後20年にあたる今年、改めてその画業についての再評価や研究を重ねてきた成果を交えて、小川原作品の新たな魅力に迫ります。第2期の作品入れ替え後もご覧ください。

会期：開催中～11月27日(日)

■第2展示室

倶知安高校100周年記念 京極夏彦美術展

ちみもりのりょう 魍魎魍魎渦巻く 京極夏彦の世界

倶知安高校卒業生の小説家・京極夏彦が手がけるビジュアルアートに注目した展覧会です。多くの人を魅了する世界観を、京極自身による美術作品で紹介します。

会期：10月1日(土)～11月27日(日)

アート・イベントのお知らせ

■ギャラリートーク

ちみもりのりょう 「魍魎魍魎渦巻く 京極夏彦の世界」

京極夏彦美術展の見どころを、担当学芸員が案内します。

日時：10月1日(土)14時～14時30分 会場：第2展示室(無料)

お相手：沼田絵美(学芸員)

■ミュージアム・コンサート

友の会アフタヌーン JAZZ ライブ

ジャズのスタンダードナンバーからヒットソングのアレンジまで、倶知安発の「白木茂ジャズカルテット」がお届けします。

日時：10月9日(日)14時～15時 会場：ロビー(要観覧料)

※申込不要、座席50席、立ち見で聞くこともできます

出演：ピアノ・白木茂さん、ベース・菅原易さん、
サクソフーン・山本浩一さん、ドラム・福田浩平さん

■土曜サロン

名曲と巡る世界の美術館(3)「ウイーン美術館」

オーストリアのウイーン美術館をクラシックの名曲とともにめぐる映像を鑑賞します。

日時：10月22日(土)14時～14時45分 会場：映像ルーム(無料)

お相手：金澤逸子(学芸スタッフ)

倶知安風土館イベントのお知らせ

■寺子屋ミュージアム「作ろう！知ろう！ニセコ連峰③」

石こうでミニチュアのニセコ連峰を作って、地形や自然について学びます。③は目国内岳～雷電山のあたりです。

日時：10月22日(土)13時30分～16時30分 場所：倶知安風土館

講師：古市竜太さん(マウンテンガイド・コヨーテ主宰) 参加費：300円(材料費)

定員：10名※要予約 予約受付：電話申込(☎22-6631)



小川原脩記念美術館 ☎21-4141

観覧料：一般 500円(400円)

高校生 300円(200円)

小中学生 100円(50円)

倶知安風土館 ☎22-6631

観覧料：一般 200円(100円)

高校生以下、美術館観覧者無料

開館時間は9時～17時

入館は16時30分まで

※()内は10名以上の団体料金

10月の休館日 毎週火曜日

展覧会初日(10月1日)は美術館観覧無料

サン 森羅万象

画家、徳丸滋。倶知安町在住。

小川原と同様、倶知安を代表する画家の一人であり、当美術館の名誉館長でもあります。そんな徳丸先生から「この夏、久しぶりに洞爺湖で展覧会をやるんだよ」と教えていただいた、表題の洞爺湖芸術館夏特別展。美術館長となってから作品に触れる機会も増え、いつの間にか妻もすっかりファンに。7月、8月と2回ほど、夫婦でお邪魔してきました。

表題があらわしているであろう、初の一斉公開となる大作「NISEKO MANDALA」三部作をはじめ、羊蹄山や川、森の木々や草花、昆虫など、大小30作品以上に及ぶ展示は、そのモチーフごとに変幻自在にタッチが変わり、まさに圧巻。洞爺湖を目の前にした芸術館の佇まいも相まって、幻想的な自然の中に迷い込んだような、素敵なひとときとなりました。

館長 福原秀和